つるが国際シンポジウム2025 2025 11/25

デジタルゲームを介して原子力発電 の興味関心の醸成に対する研究

福井工業大学 工学部 原子力技術応用工学科 川上研究室 坂下快斗

紹介

- ▶ 研究室では、クリアランス制度や使用済核燃料、高レベル放射性廃棄物をテーマにコミュニケーション手法について研究している
- ▶ コミュニケーション手法の中でも、デジタルゲームを使った 原子力の対話について研究している

背景

- ▶ 現状の原子力への興味関心 原子力に関する世論調査(2024)より
- どの項目も説明できない割合が多い
- 聞いたことだけはある、内容は知らないという人が多い



一般財団法人 日本原子力文化財団 原子力に関する世論調査(2024)(p19)より

図1: 原子力の分野の情報保有量

現状について

動画投稿サイト等のインターネットを用いた広報はされているが、他の方法に比べれば効果はあげている

一方、「あてはまるものはない」が約7割 を占めている

一般財団法人 日本原子力文化財団 原子力に関する世論調査(2024)(p83)より

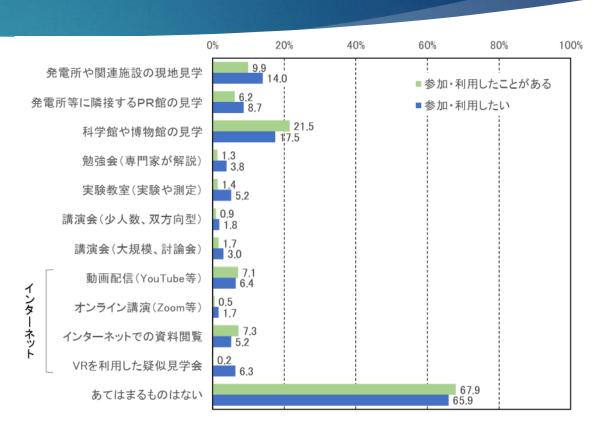
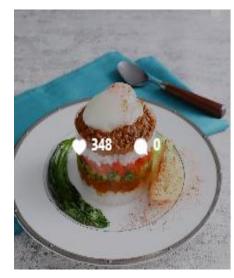


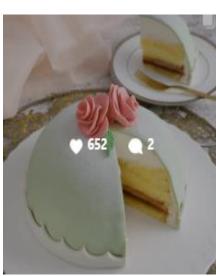
図2:原子力の広報活動について、これまで参加、 利用したことのあるもの

SNS発信例









背景

- ▶ 現状では学習機会が足りていない
- 特に原子力の学校教育がされている小、中学校では効果が少ないと言える
- デジタルゲームによる教育が広がっている
- 原子力もゲームを使えるのではないだろうか



https://www.mext.go.jp/miraino_manabi/content/376.html

https://www.konami.com/games/momotetsu/educa
tion/





目的

- ▶ 社会的な課題に取り組むゲーム、[ゲーミフィケーション]を原子力全般への興味を出す目的で使用できるのではないか
- ▶ ゲームに対する興味やゲームの能動的な取り組みを活かして、原子力に 関する興味関心を引き出す効果的な学習モデルを探る

先行研究

今回と同じマインクラフトを使用している

▶ 表1の有意差が5%表2は1%となるので、有意差は示されている

「デジタルゲームを活用した高レベル放射性廃棄物処分の対話の効果」(上村 祥代 石岡勇人) 実践政策学 2025年11巻1号 p.135-142

表1: 理解の事前・事後の平均得点

テーマ	事前	事前標準偏差	事後	事後標準偏差	平均差
HLW	3.037	0.576	3.65	0.477	0.613
エネルギーミックス	2.778	0.831	3.45	0.589	0.672

注: t 検定/1% 有意 **、5% 有意 *。

表2: 関心の事前・事後の平均得点

テーマ	事前	事前標準偏差	事後	事後標準偏差	平均差
HLW	3.333	0.816	3.7	0.458	0.367
エネルギーミックス	3.222	0.737	3.6	0.49	0.378

注: t 検定/1% 有意 **、5% 有意 *。

図3:事前、事後の理解関心の変化

ゲームの設計

- ▶ 先行研究を基に設計 「ゲーミフィケーションを活用した「学びこむ」授業の開発」
- ▶ 先行研究からの継続要素 ゲームの世界観とロールプレイ要素
- ▶ 先行研究からの追加要素 学びとその発散をゲーム内に入れ込む 学んだ結果に対する成功体験を与える

マインクラフトを使う理由

- ▶ マインクラフトは多くの人にプレイ経験があり、操作も容易 操作感覚や不慣れによる影響を少なくできる
- ▶ ゲーム内で様々な仕掛けを作れるため改良も容易
- 作ったワールド(ステージ、ダンジョンともいえる)は公開、 共有ができる
- ▶ 版権として、研究、教育目的での使用は問題ない

調查内容

- ▶ 「マインクラフト」を利用したゲームの効果測定
- ▶ 学園祭に来た人たちや11月のHLWに来る高校生、大学生を対象に調査
- ▶ ゲームを用いた実証をして、ゲームによる興味関心の変化を アンケート、ゲーム結果で明らかにする

興味関心の把握

▶ ゲームプレイの結果での把握 元々の興味関心の度合いによってゲームの難易度を変える

ゲームの進行度で読める

アンケートによる調査質問をゲームをプレイする前後で調査する



おわりに

- ▶ どのようなゲームにするのかが重要であり課題
- ▶ 興味関心を引き出すことも必要
- ▶ 気軽に触れてもらうことができれば
- ▶ クリアランスの認知度、理解活動も可能